

特集

あのみち
このみち

船橋の道

まちなかの文化財 竜神社



京成船橋駅前



北総開発鉄道が走る小室町



古和釜町木戸川周辺



京成線沿いの道



JR船橋駅北口天沼公園付近



船橋市と白井町の境「二重川」



夕暮れの農道(古和釜町)



本町5丁目の裏通り



宮本1丁目の路地



小室町八幡神社付近

PHOTO
ふなばし

船橋の道



都市型水害から市民生活を守るため
着々と拡幅工事が進む海老川



京葉工業地帯の動脈、湾岸道路。東京・千葉間を一直線で結ぶ。(浜町2丁目付近)

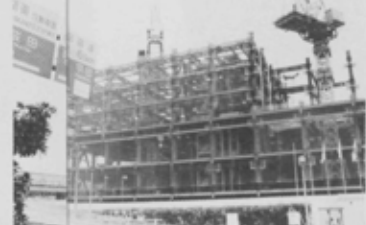


昭和39年に開通した花輪インターは、船橋市の表玄関であり1日約2万7千台の車両が通過する。ここから湾岸道路(国道357号線)にかけては特に渋滞が激しいため、今秋から本格的な立体交差化事業が開始される。

昭和27年に開通した船取線(船橋・我孫子線)の中野木交差点。右は八千代、成田方面へ向かう国道296号線。左は船橋市街地方面へ。



市では急激な都市化に対応するため、積極的に道路整備事業に取り組んでいる。



湾岸道路沿いにある東洋一のショッピングセンターららぽーとは現在拡張工事中。



世界に伸びゆく京葉港を望みながら、JR京葉線と平行して走る湾岸道路(海老川河口付近)



徳川家康が慶長19年(1614年)につくった東金街道(県道旭・船橋線)。300年を経た今では市民生活を支える幹線としてその役目を果たしている。

「道を歩けばその土地の文化がわかる」と言われますが、船橋ほど多様な面を持ち合わせた街も少ないと思います。秋の一日、休日などを利用して、未だ歩いたことのない道に挑戦し、「我が街再発見」されてみてはいかがでしょうか。

船橋はこのように急激に都市化していったため、道路の整備が立ち遅れ、交通渋滞の解消が市政の重要な課題になっています。市では現在これらの解決策として、都市計画道路9路線の整備を進める一方、市内20か所の交差点の改良事業、京成本線の連続立体交差事業、JR船橋駅北口公共駐車場の整備などの事業と積極的に取り組んでいます。

やがて昭和35年から新京成電鉄の沿線ぞいに前原団地、高根台団地(36年)、習志野台団地(42年)、などが相次いで建設され、さらに40年代以降になると夏見台(43年)、若松(44年)、金杉台(46年)、行田(51年)、芝山(52年)などに団地が次々と完成しました。そしてこれらの団地周辺の宅地造成も急ピッチで行われ、そのため人口はあつと言つ間に増加していきま

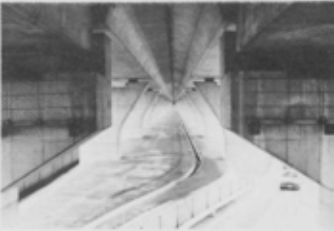
14号線などが整備され、東西の幹線道路としてその重要な役割をはたしています。そしてこれらの道路に対して、内陸部に向けて伸びる南北方向の道路とよつて船橋の道路網の骨格が形成されています。

船橋市は昭和12年に市制が施行され、今年で50周年を迎えましたが、現在では人口が約52万人と、全国で20番目の都市として急激に発展しました。市制施行当時は農漁村中心のどかな地方都市でした。

現在ではその東京と千葉県を結ぶ大動脈として、京葉有料道路、湾岸道路(国道357号線)、東関東自動車道、国道



市は二保二保の激しい交通渋滞の解決策として、立体交差化事業を国や道と協力して進めている。



東関東自動車道



船橋市のメインストリートの一つ国道14号線。船橋競馬場付近のこのあたりは、昭和14年に今の本町通り(当時の千葉街道)のバイパスとしてつくられた。今日では「バイパス」と呼ぶ人は少ない。



JR船橋駅北口から高架をくぐり南口の山口横町へ。ここは朝夕通勤通学客が行きかうバックストリートでもある。



8月1日に開通したばかりの(市道2030号線)一段と東西移動が楽になった。(上山町2)



ふと足を停めてみたくなる長寿の橋。ここには世界一長寿だった泉重千代さんの手形が飾られている。(本町通り)



海神3丁目にあるレンガ造りの京成線高架。車もやっと通過する。



拡張工事の進む県道船橋駅天沼線。完成すると4.5Mの歩道もできる。(本町6丁目)



午前8時頃のJR船橋駅前通りは、沢山の通勤通学客の活気であふれる。



昭和68年の開通を目指し、工事が進む東葉高速鉄道(本町7丁目付近)



JR船橋駅北口のグランドホテル前を東西に結ぶ道路。渋滞解消のバイパスとして昭和59年に開通した。

市制50周年記念

テレホンカード・発売中

オレンジカード

船橋市制50周年記念テレホンカードとオレンジカードが、7月24日から発売されました。

- テレホンカード 3種類 1枚700円で市内テレホンカード販売代理店で発売中。
- オレンジカード 1種類 1枚1000円で市内JR各駅およびJR船橋駅旅行センターで発売中。

特 告 報 告 誌 課 ☎ 362014

百寿万歳
ばか面おどり
オレンジカード
スポーツ健康都市・船橋

市制50周年記念愛唱歌

大船橋音頭 海の見える街で…

作詞・歌 三波春夫 作詩・作曲 伊藤 薫
作曲 遠藤 実 歌 伊藤 薫

(B面 カラオケ) ¥500 (B面 夢一途) ¥500

市内各レコード店、社会福祉協議会で発売中

三波春夫
伊藤 薫



JR船橋駅北口交差点。前方が通称市場通り(西船・習志野台線)。左は県道夏見小室線。



高層マンションなどの建ち、街を新しに生まれ変わるJR船橋駅北口周辺



門前に建つ見事な標石

新ちかのかの文化財

② 竜神社

【所在地】 船橋市海神6

お大師様といえは「弘法大師」を指すが、その弘法大師がまだ若いころ、修行を積むために諸国を廻られたそう。西海神の村にも来たそう。その時の話である。

おばあさんがお子（いも）を洗っていた。疲勞と空腹の一人の旅の僧が、から何もお腹に入っておらぬで、「どうぞ、私に里の芋を一つ下さらぬか。今朝ねだつた。こんな時、普通ならお年寄りには信心深いから、「そりやお気の毒な。一つと言わずたんと召し上げれ」とか何とか言って、感謝されるどころか、罵られて、わが和橋の、厚い人情の土地柄のおばあさんである。ところが、伝説だから仕舞ないが、「これ、石の芋だから食へん」と断ってしまった。お僧は空しく立ち去ったが、家へ帰ったおばあさんが里の芋を煮て食べようとしたところ、ほんとに石芋になってしまったという。そんな伝説の碑が海神・竜神社の境内に建っている。



大神保町の田園風景の中を行く。忘れていた草のにおいを思い出す。



人口の増え続ける船橋市。かつては純農村地帯だった八木が谷も今では新興住宅地となった。



豊かな歴史を物語る成田街道。沿道には古い商家なども見ることができる。



早朝の海老川ジョギングロード。散歩やジョギングをする市民の姿がある。



新京成線薬園台駅近くの成田街道。江戸時代、この近くには薬草園があった。



市の北部、小室には山道風の古道が多い。市街地にはない味わいがある。



小室では、毎年8月22日と9月1日に「小室の獅子舞」が行われる。



松尾芭蕉が歩いたという木下街道。今では神技のように大型車がすり抜けてゆく。



市道飯山満・古和釜線の終点付近。畑にダイコンの種をまく風景が見られた。(古和釜町)



畑の中をぬように走る道路。朝夕、通勤のマイカーがよく通る。(大穴北)



藤原・鎌ヶ谷線(中沢道)。8月1日からは旭町まで抜けられるようになった。



犬を連れてののどかな散歩(古和釜町)

船橋市制50周年記念
「ひるの散歩道」公開録音に長い列

9月10日(木)、船橋市民文化ホールで船橋市制50周年を記念し、NHKラジオ「ひるの散歩道」の公開録音が行われました。この日のゲストは島倉千代子さんと千昌夫さん。2大スターの出演ということで開演の午後6時には約1,200人の市民で文化ホールが埋まりました。1時間30分という短い時間でしたが、「星影のワルツ」や「東京だよお母さん」などのおなじみの曲に観客席からは惜しみない拍手が続きました。

千昌夫さんと司会の基西アナウンサー

公開録音する島倉千代子さん

船橋市医師会創立50周年記念
ヘルシー船橋フェアに16,000人

船橋市医師会創立50周年と船橋市制50周年を記念して8月20日から25日まで、市民の健康と生命を守る大会「ヘルシー船橋フェア」が開催されました。会場となった船橋東武百貨店5階では、船橋市の医療システムをみなさんに広く理解していただくためパネルやビデオを用意し、全国に先駆けた市立医療センターのオープンベッド方式などを紹介。また、ヘルシーライフコーナーでは無料医療相談や血圧測定などが行われました。健康への関心の高さを反映し、6日間で約16,000人の市民で賑わいました。

血圧測定

体力測定

大橋和夫市長と山崎芳久船橋医師会会長



静かな竜神社の境内



65歳以上の人32,020人が敬老の日を迎えた船橋市。高齢化社会がすぐそこまで来ています。この日各地の施設を訪ねた大橋和夫市長は、「海老川橋の高欄にある泉重千代さんの手形に触れれば百歳まで長生き出来るかもしれません。体に気をつけ楽しく毎日を通して下さい」とみなさんの健康を祝い、住み良い街づくりを約束しました。写真は、三山園を訪れ山崎きよさん（右側104歳）や布施かねさん（中央・99歳）たちに記念品を贈る大橋和夫市長。

船橋市はことし 市制50周年です…



JR船橋駅北口交差点を左折し300Mほど進んだところで都市計画道路3・4・20号線の建設が進められている。やがて行田へ続き、将来は市川市まで伸びる予定だ。



市民の要望により3月に開通した市道3・6・100号線。緑台グリーンハイツが市街地に一段と近付いた。

編集だより

先日取材で小学生の頃よく遊んでいた滝台の分譲地周辺を久しぶりで歩いた。あの頃（昭和30年代）は未だ家なども全然なく、荒涼とした殺風景な原っぱで毎日のように隣り近所の友達と暗くなるまで野球をして遊んだ。しかし沢山の家が建てられた今、その道の曲がり具合、積み重ねられた石垣の感じなどだけがわずかに当時の面影を残すのみ。いつも心の片隅に生きていた懐かしい場所はずいぶん記憶のなかだけの風景となってしまった。

毎日通る道、毎日見る街角をカメラで撮ることはむずかしい。しかし、それでも1枚の写真を残せば、こんな楽しいことはないと思う。いつも歩いて見る、その角度、その距離で。